

# 導入事例

ASH CORPORATION CUSTOMER STORIES :  
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

導入事例

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟



新しい生活様式に対応した  
イベントのカタチ



## 「全国こども体験フォーラム2021」をハイブリッド形式で開催！ 新しい生活様式に対応したイベントのカタチ

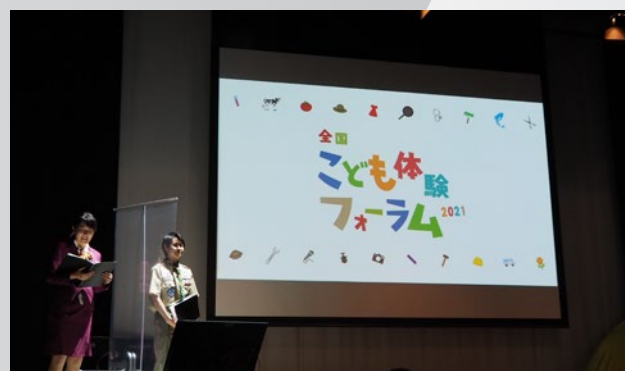
公益財団法人ボーイスカウト日本連盟が  
「全国こども体験フォーラム2021」をキッズニア東京で開催した。  
新しい生活様式の中でも持続可能な新しい形のイベントを実現するため、  
プロ仕様の映像機器を駆使し、リアルイベントと同時に  
オンラインでの参加も可能になるハイブリッド形式に挑戦した。

### 子どもたちの成長に「体験」が与える重要性を リアルとオンラインで伝えたい

子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、幅広い体験を通して意識や感性を育むことが重要だとされている。ボーイスカウトは、野外でのグループ活動を通して子どもの自主性、協調性、リーダーシップなどを育成する世界的な教育運動だ。子どもが自然に触れることができる貴重な機会を提供している。

新型コロナウイルスの影響で、子どもたちの屋外活動の減少が懸念される中、ボーイスカウト日本連盟は文部科学省から委託を受け、2021年2月21日、子どもの体験活動推進を目的とした「全国こども体験フォーラム2021」を開催した。「安全を確保しつつ体験活動の素晴らしさを広く伝えたい」とのボーイスカウト日本連盟の意向から、メイン会場（キッズニア東京）では来場人数を制限し、来場がかなわなかった方々のため、オンライン配信することとなった。今回、フォーラムのオンライン配信を実現するため、AJA社およびNewTek社の映像機器が多数採用された。

### 日本各地をつないだ中継、リモート出演、 視聴者参加型の配信



さらに、オンライン開催を取り入れるにあたり、単に会場の様子を配信するのではなく、オンラインのメリットを活かして、日本各地のボーイスカウト活動会場やゲストスピーカーと中継をつなぎ、リモート出演してもらうことになった。また、参加者との双方向コミュニケーションを重視して、来場者だけでなくオンライン視聴者も質疑応答できるようにしたいとの主催者側の意向をかなえるため、キッズニア東京でのステージイベントと視聴者

参加型のオンライン配信を同時に行える“ハイブリッドイベント”用のワークフローの構築が求められた。リアルとオンラインの出演者が短い間隔で入れ替わる演出も加えられたため、生配信でも確実に連携できる方法が必要とされた。

## TriCaster®を中心とした番組作り、 YouTubeとZoomで配信



配信システムはNewTek社のライブ映像制作・配信システムTriCaster TC1を中心に配置。TriCasterシリーズは、番組作りの基本となるスイッチング・収録・配信・合成・テロップ作成の機能が1台に詰め込まれている製品だ。今回はメイン会場のカメラ映像の他、リモート出演者のビデオ映像、プレゼンテーション、ビデオ素材など全ての映像ソースをTriCaster TC1に入力。ミックスエフェクト（合成チャンネル）で配信用のレイアウトを作成し、配信映像の切り替え、テロップとVTR出しをTriCaster TC1で操作できるようにした。リモート出演者との中継には放送局向けのビデオ通話ソリューションSkype TXを採用し、Skype TXからのビデオ映像を、NDI信号でTriCaster TC1に入力した。

配信プラットフォームにはYouTubeとウェブ会議システムのZoomを使用し、オンライン視聴者もチャットやコメント機能を使って質疑応答に参加できるようにした。

YouTubeにはTriCaster TC1からのプログラムアウト（最終出力）を、AJA社の配信デバイスHELOでH.264にエンコードして配信。Zoomには、HELOとは別系統のTC1からのプログラムアウトをAJA社のUSB 3.0接続キャプチャーデバイスU-TAP SDIを使ってパソコンに入力し、オンライン配信中の映像を届けていた。

イベントの収録には、AJA社のマルチチャンネルH.264レコーダーKi Pro GOを使用した。

## 冗長性のあるワークフローで トラブル時やイベント後も万全

今回、リモート出演者との中継にはSkype TXを採用したが、これはNDIを使ってSkypeのビデオ通話を、個別の映像信号として送出できる点が決め手となった。Skypeの通話を1つの映像ソースとしてTriCasterに入力して扱えるため、複数の中継映像を効率的に番組制作に活かすことができた。

プレゼンテーションやZoomなどコンピューター画面の映像には、AJA社のスキャンコンバーターROI-HDMIを使用して、画面の必要な部分だけを抽出した。AJA ROIシリーズには、関心領域（Region of Interest）と呼ばれるコンピューター画面の選択範囲のみを映像信号に変換して送出できる機能が備わっているのだ。メニューバーなど余分な部分を取り除いた状態で映像ソースとして使用できるので、パソコン画面を活用する配信には非常に適した製品だ。



配信にはAJA HELOを使用したが、TriCaster TC1からのプログラムアウトをAJA U-TAPを介してノートパソコンにもバックアップとして入力し、ビデオ配信ソフトウェアWirecastで、YouTubeに並行配信することで、トラブルが発生した際には、すぐに切り替えられるように備えていた。

AJA Ki Pro GOでは、実際に配信された映像の他にメイン会場に設置したカメラ3台の映像を個別に記録し、アーカイブ動画用に編集が必要になった場合でも対応できるようにした。また、Ki Pro GOは市販のUSBメディアに記録できるため、イベント終了と同時に関係者に映像データをすぐに手渡すことができた。

## 新しい生活様式に対応した ハイブリッドイベントの形



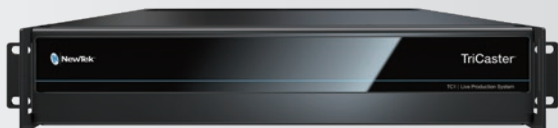
フォーラムではメイン会場での各事例発表はもちろん、日本各地から中継をつないでの活動報告の他、ボーイスカウト出身の麻生太郎副総理や、国際宇宙ステーション（ISS）に滞在中の宇宙飛行士で同じくボーイスカウト出身の野口聡一氏などからのビデオメッセージが再生され、イベントを盛り上げた。配信はTriCaster TC1を中心としたシステムで、画面を視聴者が見やすいレイアウトにし、発言者や見せる内容に合わせて適時画面を切り替えるなど、見る人を飽きさせない演出を実現した。質疑応答では会場から

だけでなく、オンライン参加者からもチャットやコメントで質問が寄せられた。リモート出演のゲストとメイン会場の登壇者が会場のスクリーン越しに意見交換をする、ハイブリッドイベントらしい光景も見られた。本フォーラムには来場者とオンラインを合わせて約500人が参加。場所にとらわれず参加できるメリットもあり、

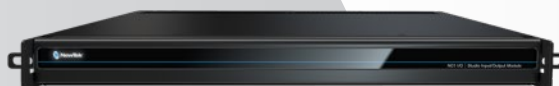
今後はこうしたリアルとオンラインを組み合わせたハイブリッドイベントは確実に増えるだろう。

野外活動が中心のボーイスカウトも、今はオンラインを取り入れながら活動を続けており、フォーラムのハイブリッド開催は、今後の活動にもつながる経験となった。

## 導入機材



NewTek TriCaster® TC1



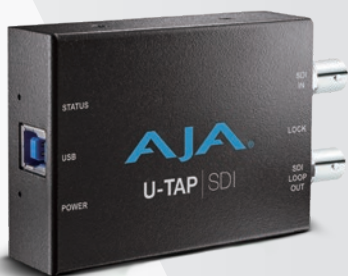
NewTek NC1 Studio I/Oモジュール



AJA HELO



AJA Ki Pro GO



AJA U-TAP



AJA ROI-HDMI



AJA FS-Mini

本システムに関する問い合わせ先

株式会社 **アスク** メディア&エンタープライズ事業部

☎ 03-5215-5676 ✉ me@ask-corp.co.jp

🌐 www.ask-media.jp